

複数の知的財産法による保護の交錯

〔目次〕

●ご挨拶	日本弁理士会中央知的財産研究所所長 筒井 大和	i
●序文	主任研究員 土肥 一史	ii
●研究部会 研究員		iv
<hr/>		
・画像デザイン保護に関する問題の所在 —著作権法による保護との関係など—	五味 飛鳥	1
・商品形態の商品等表示該当性	宮脇 正晴	12
・商標法と著作権法の交錯 —音の商標の導入を意識して—	足立 勝	20
・商標法 4 条 1 項 8 号による人格的利益の保護 —氏名権を中心に—	茶園 成樹	40
・キャラクターの保護 —商標法・不正競争防止法・著作権法を巡る諸論点—	金子 敏哉	53
・商標的使用と意匠的使用の判断基準	中村 仁	64
・商標と商品等表示	末吉 互	72
・不正競争防止法 2 条 1 項 3 号について —意匠法との関係を中心に—	外川 英明	81
・応用美術の著作権保護 —「段階理論」を越えて—	上野 達弘	96
・登録の場面における商標と意匠の抵触 —共同体意匠と共同体商標の抵触事例を中心に—	大西 育子	117
・建築の著作物、店舗デザインの保護	横山 久芳	131
・輪郭のない色彩商標 —色彩つき意匠との関係—	大島 厚	160
<hr/>		
●事項索引		179
●判例索引		181